

高齢者差別の医療制度は廃止しかなく、撤廃の一点での共同を、

「近所のみなさん、日本共産党です。」「静聴」ご協力をよろしくお願いします。

四月から始まった、後期高齢者医療制度について、「いったい、誰が、こんな制度をつくったのか」、「長生きすることは、いけないことなのか」・・・と、怒りがうずまいています。七十五歳で「命の線引き」をして、今まで入っていた国民健康保険などから追い出し、重たい負担を押しつけた上、医療に差別を持ち込む――後期高齢者医療制度は、廃止するのが一番よいのではないのでしょうか。

批判の声の大きさに驚いて、**政府・与党まで、「見直し」を言い出しました。**

小手先の「見直し」ではなく、後期高齢者医療制度廃止の一点で、力をあわせようではありませんか。幅広い共同で、廃止に追い込んで、三月までの制度にもどそうではありませんか。その上で、安心できる医療制度のあり方について、財源を含めた国民的討論を、起こそうではありませんか。

署名にご協力を、よろしくお願いします。

「近所のみなさん。」

日本共産党が、後期高齢者医療制度は、「廃止しかなく」と考える第一の理由は、医療費を削減することが目的の、**高齢者差別は許されないから**です。

政府は、七十五歳以上の方は、「複数の病気にかかり、治療が長期化する」とか、「認知症の方が多い」、「いづれ・・・死を迎える」特性を持つっていると、説明しています。

つまり、「やがて死ぬのだから、お金をかけるのはもったいない」と、いうのです。

声を出して言うのも、はばかられる理由で、既に、**糖尿病や高血圧など、慢性の病気を**持っている方の治療は、六千円までに制限する仕組みが、導入されました。早期の退院を迫り、「在宅死」をふやす仕組みまで、導入されました。

各地の医師会やお医者さんたちも、反対の声をあげています。

人間の命にかかわる問題で、お年寄りを差別する制度をつくった国は、ありません。廃止の一点で、力をあわせようではありませんか。

みなさん。

日本共産党が、後期高齢者医療制度は、「廃止しかなく」と考える第二の理由は、この制度が長続きすればするほど、苦しみが大きくなるからです。

政府・与党・公明党は、国民健康保険と比べて、保険料が安くなるかのような宣伝をしてくれましたが、とんでもありません。安くなる根拠などありません。

保険料は、二年ごとに改定されます。七十五歳以上の方が増え、医療技術の進歩にともなう給付が増えれば増えるほど、値上がりするしくみになっています。政府の試算でも、「団塊の世代」が「後期高齢者」となる二〇二五年には、平均保険料が、現在の約二倍、十六万円にもなる例が、示されています。

「定額制」の対象を、慢性の病気以外にも広げ、診てもらえるお医者さんを、一人の「かかりつけ医」に限定するなど、差別がいつそう拡大されます。本当にひどい制度です。

「近所のみなさん。」

日本共産党が、後期高齢者医療制度は、「廃止しかなく」と考える第三の理由は、この制度が、若いも若きも、すべての世代に、重たい負担と医療切り捨てを、押しつける制度だからです。

政府・与党は、「世代間の負担の公平」と、よく言います。あたかも現役世代の負担が軽くなるかのような言い分ですが、とんでもありません。現役世代からは「支援金」をとり、「団塊の世代」をねらい打ちにした、この制度は、すべての世代を苦しめる制度です。廃止の一点で力をあわせましょう。署名にご協力をお願いします。ありがとうございました。